

北海道電力が今夏、1日最大25万キ・ワの電力を卸電力市場などで購入していたことが5日分かった。同日の道議会産炭地域振興・エネルギー問題調査特別委員会で、道が明らかにした。北電は今夏の電力需給見通しに市場などの調達分を含んでおらず、特別委では「隠し玉では」との批判が上がった。

卸電力市場は、電力会社や自家発電設備を持つ企業の余剰電力を、電力が足りない電力会社などが入札などで購入

卸市場で電力調達

北電、需給見通しに入れず

できる仕組みとなっている。北電は「今後の取引に影響が出る」として購入した量や価格などを公表していないが、道によると、7月23日～8月31日の間、1日25万～4万キ・ワの電力を同市場や市場を介さない相対取引などで調達していたという。北電は今年4月に今夏の最大供給電力を485万キ・ワと公表したが、「調達できる

「隠し玉」道議から批判も

量や価格が不安定」として、市場などでの購入分を含めていなかった。特別委で星野高志道議（民主党・道民連合）は「道民に節電を求め、後から供給力が増えるのは理解できない。市場の取引の詳細を明らかにすべきだ」と指摘した。山谷吉宏経済部長は「電力需給が落ち着いた段階で、検証して道民に説明することが必要」と述べた。